訪問を歓迎します

言語教育情報研究科への進学を考えている方、ぜひ実際にキャンパスへ来てみませんか？
本学では春と秋に大学院進学説明会を開催していますので、気軽に参加してみてください。
詳細は言語教育情報研究科のHP<http://www.ritsumei.ac.jp/gsleis/>をご覧ください。
言語教育情報研究科の教員と連絡をとりたい場合は、研究テーマをメールに明記した上で衣笠独立研究科事務室にご相談ください（入学試験出願開始日２週間前から入学試験当日までは取り扱っておりません）。

衣笠キャンパス　交通アクセスマップ

http://www.ritsumei.ac.jp/accessmap/kinugasa/

キャンパスマップ

http://www.ritsumei.ac.jp/campusmap/kinugasa/

2021年度実施入試日程

選考方法、出願資格などの詳細は入学試験要項をご確認ください

	出願期間	試験日	合格発表日	実施する入試方式
2021年 9月入学	2021年5月26日(水)～2021年6月9日(水)	2021年7月4日(日) ※海外在住者は別途連絡します。	2021年７月21日(水)	一般・外国人留学生・APU特別受入
2022年 4月入学	2021年5月26日(水)～2021年6月9日(水)	2021年7月4日(日)	2021年７月21日(水)	学内進学
	2021年7月7日(水)～2021年7月21日(水)	2021年9月11日(土)	2021年9月29日(水)	一般・社会人（一般）・社会人（自己推薦）・社会人（協定）・外国人留学生・学内進学・APU特別受入
	2021年12月8日(水)～2021年12月22日(水)	2022年2月5日(土)	2022年2月22日(火)	一般・社会人（一般）・社会人（自己推薦）・社会人（協定）・外国人留学生・学内進学・APU特別受入　・飛び級

※9月入学の一般・外国人留学生入試では日本語教育学プログラムは募集しません。

立命館大学衣笠独立研究科事務室
TEL: 075-465-8363　FAX: 075-465-8364
E-Mail: doku-ken@st.ritsumei.ac.jp

立命館　言語教育情報　検索

研究科HP

RITSUMEIKAN

2021

立命館大学大学院
言語教育情報研究科

Graduate School of Language Education and Information Science
Ritsumeikan University

Language Education and Information Science

言葉を探る　言葉を教える

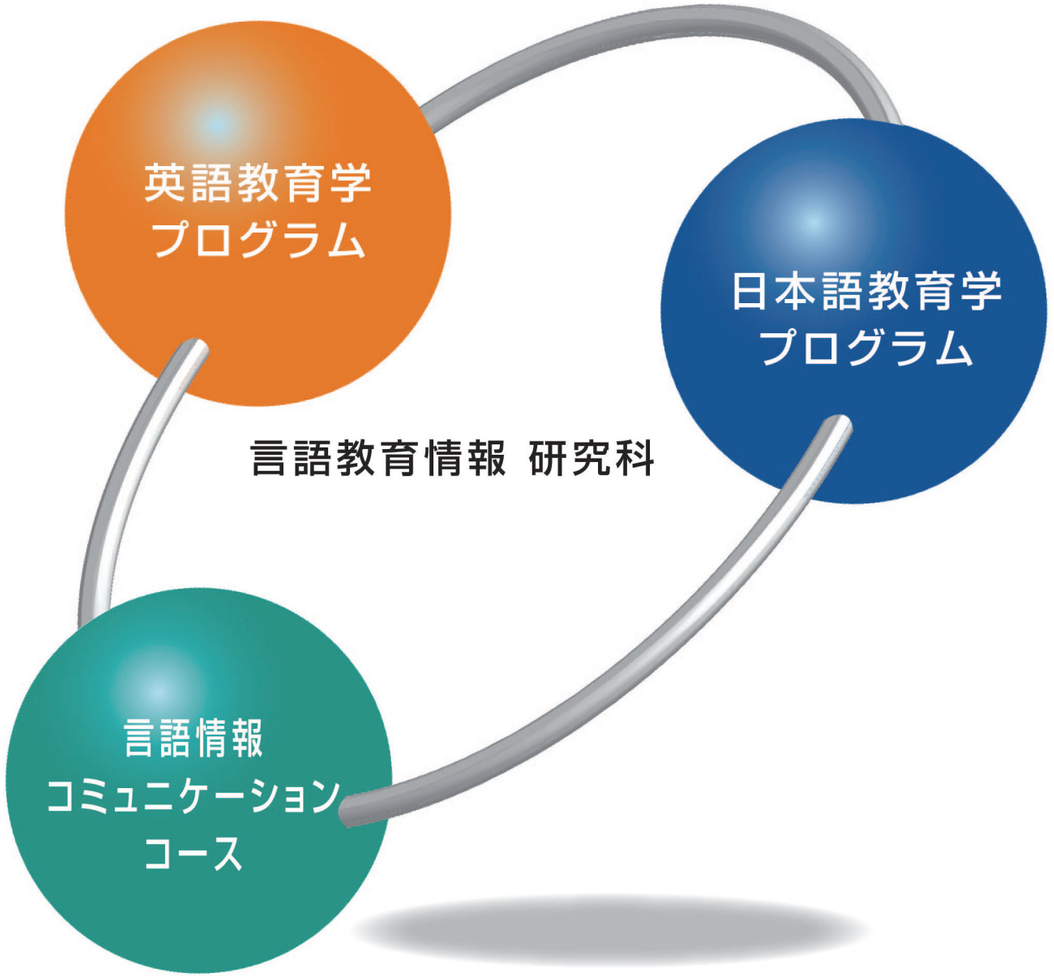
言語・言語教育に関する学問を充実の施設と国内外の実習の場で学ぶ

言語教育情報研究科は「言葉を探り、言葉を教える」基盤を学び、研究する場所です。言葉は、人間のあり方、社会のあり方を考える上で不可欠の要素です。グローバル化、外国人労働者の受け入れ、機械翻訳、危機言語・方言の維持・復興、言語能力の生物学的な基盤、いずれも言語が問題となっています。このような今日的な課題を考える上で必要になるのが言語そのものの仕組みについての学問（言語学）と言語教育学や社会言語学といった学際的な学問です。

本研究科は、日本語教育・英語教育の専門家を目指す人たちと言語に関する様々な領域の専門家を目指す人たちに門戸を開放しています。学部を出たばかりの方、言葉に関わる仕事をしてきた方、日本人と留学生、関心だけでなくバックグラウンドも多様な院生がお互いに刺激を与えながら研究しています。

言葉に関連する学問は日進月歩で発展しています。本研究科は、高性能の脳実験装置や大規模なコーパスを処理するためのコンピュータを有するとともに国内外での教育実習の場も用意されており、学問の進歩と社会からの要請に応えられる体制が整備されています。立命館大学は各種研究助成制度も充実しています。大学院に入ってから成長する心構えのある方を歓迎します。

立命館大学大学院
言語教育情報研究科長
佐々木　冠
SASAKI KAN

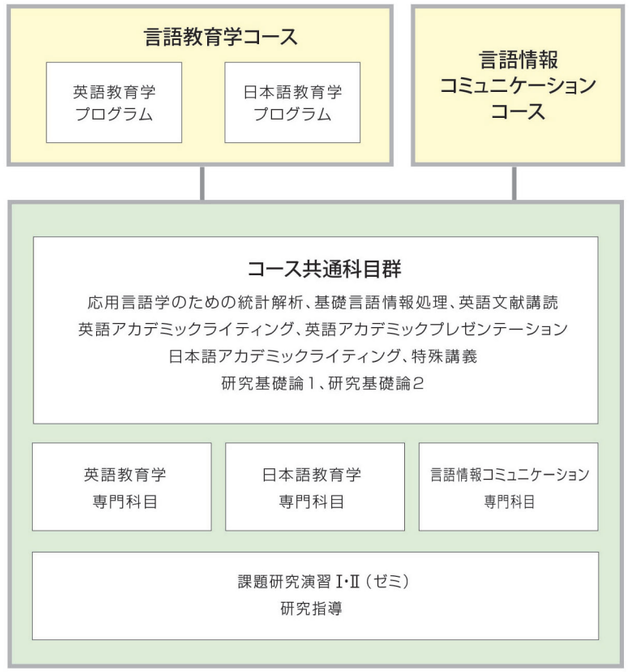


人材育成目的

言語教育情報研究科は、現代社会のニーズに応えられる高度な言語教育能力、言語情報学、応用言語学、社会言語学・コミュニケーション関係の専門知識、言語情報処理技術などを身につけた国際的に通用する人材の養成を目的としています。

カリキュラム構成

言語教育情報研究科は、言語教育学コースと言語情報コミュニケーションコースから構成され、言語教育学コースはさらに英語教育学プログラムと日本語教育学プログラムから分かれます。
個人のニーズに応じて、所属するプログラム・コースを問わず、一部の科目を除いて、各プログラム・コースの専門科目を履修することができます。



2年間の流れ

春４月入学の場合

１年次春セメスター	１年次秋セメスター	２年次春セメスター	２年次秋セメスター
1年次研究指導計画書の提出（4月）	構想発表会（12月） ゼミ希望の提出（1月） ゼミ所属決定	2年次研究指導計画書の提出（4月）	中間報告会（10月） 修士論文・特定課題研究に関する報告論文の提出（1月） 口頭試問（1～2月） 学位授与・修了（3月）

秋9月入学の場合

１年次秋セメスター	１年次春セメスター	２年次秋セメスター	２年次春セメスター
1年次研究指導計画書の提出（10月）	構想発表会（6月） ゼミ希望の提出（7月） ゼミ所属決定	2年次研究指導計画書の提出（10月）	中間報告会（4月） 修士論文・特定課題研究に関する報告論文の提出（7月） 口頭試問（7～8月） 学位授与・修了（9月）

英語教育学プログラム
English Education Program

カリキュラムの特徴

大学4年間で英語の一種免許を取得した（または、あと少しで取得予定の）段階から、更に一歩深く英語教育学・英語学を学ぶことで専修免許を取得し、現場で高い専門知識・技量を持った英語教員として活躍できるカリキュラムを提供しています。海外の大学と共同開講しているTESOLプログラムを履修することで、国際水準を満たすTESOL certificateを取得することもできます。また、在学中に教育現場体験ができるように、近隣の府立高等学校でのインターンシップも提供しています。情報コミュニケーション・日本語教育学・言語脳科学等他のコース・プログラム提供の講義も受講できますので、修了後に教職だけでなく研究職や一般企業就職等に幅広く対応しています。

■ 英語教育関連科目（講義系）

外国語教育の基礎ともなる第二言語習得理論、その研究成果を踏まえた英語教授法論、英語教育における語彙習得論、言語教育における測定と評価、カリキュラム設計とシラバスデザイン、そして、日本での英語教育において重要度が増している早期英語教育論などの科目を配置しています。また、言語情報コミュニケーションコースのバイリンガリズム関係の科目も有用です。これからの英語教育を担っていく教員に必要な、高度な専門性を身につけることができるカリキュラムになっています。

■ 英語学関連科目

英語の音声学・音韻論、文法論などの科目を配置しています。英語学に関しては言語情報コミュニケーションコースで設定している内容も多く、意味論・語用論、形態論・統語論、英語語法文法研究、対照表現研究などが学べます。本研究科で学ぶことができる英語学の知識・分析方法は、英語教師にとって必須であるだけでなく、英語学分野の研究を深く続けたいと考える人にとっても重要な基礎となるものです。

■ 実践・演習系科目

英語教育における実践力をつけるために、英語授業研究演習（模擬授業含む）、教材開発演習、電子教材開発演習、英語教育インターンシップなどの科目を配置しています。また、海外の協定校で行うTESOLプログラムでは、TESOLの理論から実践までを5週間でカバーします。新しい統合型の英語技能学習指導は授業分析のための実践的科目であり、言語情報コミュニケーションコースのコーパスによる言語分析演習も有用な科目です。

想定される進路

英語教育学プログラムでは、現代社会のニーズに応えられる先進的な英語教育学の理論と実践技術・教育力、英語教育に関する知見を身につけることができます。このような能力を活かして主に下記のような進路で活躍する人材を輩出しています。

・英語教員(中学・高校・大学の英語教員)
・博士課程進学(英語教育に関する分野)
・教育・出版事業（企画／編集／開発分野、学習塾など)

在学生の声

佐竹 郁哉 さん
（2020年4月入学）

言語教育情報研究科へ入学した理由は、英語教育や巷に溢れている「効率的な学習方法」に疑問や関心を持っていたからです。これまでに中学・高校・大学と英語を勉強し、私自身は特に苦手意識を持たずに学習できましたが、一方で勉強してもなかなか上達しない人もいるという状況も目の当たりにしてきました。次第に「原因はどこにあるのだろうか?」と疑問に持つようになり、この疑問を解消したいと思い大学院への進学を決意しました。
研究には様々な角度からのアプローチがありますが、基本的な流れとしては、先行研究から未開拓の課題を見つけ、仮説、検証、結論を描くこととなります。大学では理論を学ぶケースが多いですが、大学院では実際に理論を応用して課題解決まで行う必要があります。また、その過程では統計分析や研究内容に関するプレゼンをする必要があるため、これらの能力も身につけることができます。ちなみにこれらは全て先生方が授業などを通して手厚くサポートしてくださるので、初修の私もついて行くことができています。英語の文献を読むこと、英語でのプレゼンテーション、統計分析、論文の執筆など、特に初修の人にとってはなかなかハードルが高いですが、その分やりがいや得るものも多く、入学して良かったと実感しています。
現在私は「第二言語習得における、ワーキングメモリとリスニング力の相関」について研究を進めています。ワーキングメモリとは脳の働きの一つで、「処理」と「保持」を同時に行うという役割を持っています。
このワーキングメモリが第二言語でのリスニングにおいてどのような影響を与えるのかを研究しています。この研究を通じてL1ワーキングメモリ容量はL2においても反映されるのか、また、それらとL2リスニング力との間に相関関係はあるのか明らかにすることを目指しています。
修了後は引き続き英語が使える環境で働くことを考えています。前述の研究を通して得られる能力を用いて、"English as a lingua franca"という様に、英語を通じて世界と繋がれたらいいなと思っています。

日本語教育学プログラム
Japanese Education Program

カリキュラムの特徴

日本語教員としての高度な専門性と、それを活かす実践的な力量を獲得できるよう、日本語教育学（講義系）、日本語学、教材開発や教育実習（演習系）など、関連領域の基礎知識から教育実践まで体系的に修得できるカリキュラムを設定しています。所定の条件を満たすと日本語教員養成課程の修了証を得ることができます。学部で日本語教育学や日本語学を学んで進学してくる人はもちろんのこと、現職の日本語教師の方や留学生というように、多様なバックグランドをもった院生がお互いに刺激し合い、切磋琢磨できる環境・内容を提供しています。

■ 日本語教育関連科目（講義系）

日本語教育の基礎から応用までの主たる内容として、日本語を対象とした第二言語習得論、日本語教育総論、教授法・教材論、そして言語教育における文化教育論、年少者日本語教育論などの科目を配置しています。日本語教育の知識・実践方法を学ぶというだけでなく、多様な学習者や教育環境に合わせて最適解を自分で考えることができるように、各自の応用力をつけることを目指す内容です。

■ 日本語学関連科目

日本語の音声・音韻、語彙と意味、文法、語用論、談話分析などを学べる科目を、言語学的な視点と応用言語学的な視点で学べるように配置しています。ここで学ぶ日本語学の知識・分析方法は、日本語を外国語として教えるためにも、また、日本語を言語学的に研究するためにも重要な基礎となるものです。

■ 実践・演習系科目

日本語教育における実践力をつけるために、教材開発演習、電子教材開発演習、日本語教育実践演習（模擬授業含む）、日本語教育学演習（協定校での実習）などの科目を配置しています。特に協定校での実習は、国内の日本語教育機関だけでなく、英語圏、中国語圏、韓国、ベトナムでの実習機会も提供しており、国内外で活躍できる日本語教師の育成を目指したものです。また、正課外の活動として多文化共生プロジェクトや、府立高校での日本語教育ボランティアなどの活動も行っています。

想定される進路

・国内外の大学、専門学校、日本語学校などの教育機関、また、国際交流基金や国際協力機構(JICA)などの派遣により海外の機関で教える日本語教員
・日本語教育学またはその関連分野を専門とする研究者
（本学文学研究科や他大学の博士課程進学）
・出版関係や教育関係など、日本語教育や言語に関する知見とスキルを広く社会に活かす社会人
・小、中、高等学校の外国ルーツの児童生徒を対象とした日本語指導員

在学生の声

大黒 恵美 さん
（2020年4月入学）

私は、今まで日本及び海外の教育機関で日本語教育に携わってきました。学習者に日本語を教え、接する中で、学習者が効率よく学べる方法はないだろうかと常に考え、この教え方でいいのかと壁にぶつかるたびに、論文等を読んだり研究会に時々参加したりしていました。
常に実践だけでなく理論も必要であると考えていたものの、研究の世界に踏み込むには私には限界があり、「教えること」と「研究すること」を基礎から学べる言語教育情報研究科で学ぶことを決意しました。
言語教育情報研究科では、国籍、年齢、職業等、異なるバックグラウンドの人たちと共に学ぶことができ、さらに、所属するコースやプログラムの垣根を越えて授業を履修することができるという魅力があります。授業で様々な人たちとディスカッションをする中で、私の中の今までの常識が覆され、「ことば」「教育」に対する価値観が揺さぶられるような刺激を受けています。また、「研究基礎論」という科目では、1年に渡って英語・日本語を問わず様々な分野の研究をされている先生方から、言語・言語教育を研究していくにあたってのアプローチの仕方を学び、研究計画について多角的なアドバイスをいただきました。この授業での学びや先生方からのご助言が、これから研究について考えるときの糧となったと思っています。
私はそのような中、日本語学習者の読解教育に興味を持ち、日本語学習者がどのように日本語の省略文を読んでいるのかという問いを明らかにするために研究を進めています。第二言語習得の視点から学習者の実態を見つめることで、教師として学習者にできることを明らかにしたいと思います。修了後は、言語教育情報研究科で学んだことを生かして、研究を続けながら日本語教育機関の現場で実践を積んでいきたいと考えています。

言語情報コミュニケーションコース

Language Information & Communication Course

カリキュラムの特徴

本コースは、言語学、言語情報科学、社会言語学、脳科学の観点から学生が様々な言語を研究できるようにする教育を行っています。日本語（標準語）と英語だけでなく様々な言語や方言を研究対象とすることができます。学生が自分でデータを取得し分析することができるよう、コンピュータによる大規模コーパスの解析方法やアンケート調査・フィールドワークの方法を学ぶことができます。また、脳科学による言語研究の方法を学ぶことができるほか、CALL教材開発の方法を学ぶことができます。オリジナリティーのある分析ができるようになるために記述文法と言語理論を重視します。

■ 言語学関連科目

音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論といった言語学の諸分野を扱う科目を配置しています。言語類型論の知見を取り入れた講義は、日本語や英語以外の言語の分析にも役立つ内容になっています。新しい知見を得るには、言語理論を学ぶだけでなく調査や分析の方法も学ぶ必要があります。フィールドワークやアンケート調査のノウハウを学ぶことができる科目も開設しています。

■ 情報関連の技術を習得させる科目

コーパスを使った言語研究が盛んになっています。大規模な言語資料を分析する上で必要になる情報関連の技術を修得する科目を配置しています。正規表現の使い方などを学ぶことにより、用意されたソフトウェアを使うだけでなく、テキストエディタなどによるデータの分析ができる力を身につけることができます。

■ 社会言語学・コミュニケーション論関連科目

2009年2月19日、ユネスコは日本国内に8つの危機言語があることを認定しました。8つの言語にはアイヌ語の他に日本語と琉球語の方言が含まれています。日本はこのように言語的多様性を呈する社会でしたが、近年は外国にルーツを持つ方々の増加により多言語社会としての性質をより強く帯びるようになりました。このような社会の言語状況を分析するために、多言語社会を理解するための社会言語学やコミュニケーション論関連の科目を配置しています。

■ 言語脳科学関連科目

文理融合学際的科目として、脳血流計を使った言語脳科学科目を提供しています。母語と第2言語使用時の脳活動データを実際に自分から収集し、言語力と比較検討することができます。収集データをバイリンガリズムや医学的観点から解析ができるように、基礎科目も開講しています。基礎から応用まで学ぶことができるのが魅力です。

想定される進路

言語情報コミュニケーションコースでは、言語学の専門知識を身につけることができるほか、テキスト処理技術、ICTに関する専門知識などの能力を身につけることができます。このような能力を活かして主に下記のような進路で活躍する人材を輩出しています。

・製造分野(システムエンジニア／研究／開発など)
・出版社／教育事業分野(企画／編集／開発など)
・博士課程進学(言語学など)

在学生の声

ボウ ゲンキン さん
（2020年9月入学）

言葉は、とても不思議で面白い。私はそう思っています。これは、誰かの言葉で、人生を改めて考えさせられる意味でいうのではなく、単純に外国語学習者にとっての異種言語の不思議さと面白さです。日本語の「僕は3年前に来ています」のような言い方は、私にとっては興味深い表現です。この表現の解釈については、これまでいくつかの分析が提案されていますが、自分になるほどと思わせるものはまだ見つけられていません。

なにを偉そうに言ってるの、と思われるかもしれませんが、これは言語研究の日常茶飯事なのだと、言語教育情報研究科に進学して半年経った今、感じています。このように感じるのは、言語研究は数学や物理学などと違い、唯一正しい物差しをもってある言語表現を測定するようなものではないからだと思います。そして、そのことが言語研究の楽しさ、面白さの源なのだと思います。学んだ理論知識をもとに、自分で問題を設定し、研究を行うことに楽しさを感じています。

授業では、特定のテーマについて重要文献を精読し、当該研究におけるその文献の位置づけから、分析方法、用語の意味解釈まで、様々な角度から検証します。さらに、日本語、英語のほか、中国語、韓国語など多種多様な言語から、関連する言語現象を取りあげ、活発に議論を交わしながら、研究の基礎力を養っています。日本語といっても、東京方言だけが対象というわけではなく、北海道や東北地方の方言などがとりあげられることもあり、言語教育情報研究科の授業は、刺激に溢れています。柔軟性のある研究姿勢が培われることと思います。

日本語の表現として「僕は3年前に来ています」は「3年前に来たことがある」という意味ですが、この表現に出会った時は、「よほど道のりが遠いのか、3年もかかってまだ到着していないのか」と思いました。この継続相の文章の意外な解釈に出会って、私は、「テンス・アスペクト」の問題に興味を持つようになりました。中国語にはテンスを表す形式がないため、日本語のこうした表現には研究意欲をかき立てられます。中国語とは異なるタイプの言語を観察し分析することによって、テンス・アスペクトに関する新しい知見が獲得できることを期待しています。進路に関しては、研究者に憧れていますので、博士課程への進学を検討しています。

私たちも言語教育情報研究科で学びました。

英語教育学プログラム 2018年度修了

スウ ユウキ さん
アクセンチュア株式会社

私は言語教育情報研究科で研究した2年間のうちに、言語教育学及び言語学の専門知識や研究に必要な倫理的考え方を身につけることができました。学んだ知識に基づき修士論文では日本語、英語、中国語の三カ国語が話せる中国人留学生を対象として、三つの言語がどのようにトライリンガルの学生達の脳に貯蔵されているか分析していました。私にとって言語教育情報研究科は素晴らしい教員から自分が興味のある分野について専門的なアドバイスを受けたり、自由に自分の関心があるテーマにチャレンジできる研究に優れた場所です。修了後はここで学んだ客観的に物事を分析する方法や、論理的に課題を解析する手法など、仕事と生活の至るところで活用することができています。本研究科で過ごした刺激かつ充実な日々は、私のかけがえのない宝物です。

英語教育学プログラム 2019年度修了

井上 朝香 さん

言語教育情報研究科の魅力は、主にはその多角的で高度な専門性と、多様でありながらも同じ興味や志を持った仲間と切磋琢磨できるところです。授業では基礎知識を学ぶだけでなく、演習系の科目では模擬授業を行い、教員やクラスメイトから科学的知見に基づいた助言をもらえます。大学では別分野を専攻していた私が教壇に立つ上で、この知識や実践はなくてはならないものだったと実感しています。夏にはTESOLプログラムに参加し、移民の方向けの英語の授業に講師として参加するなど、日本以外の英語教育現場を知る貴重な経験をしました。他にも、府立高校での実習を通して、高校で教えることのイメージがつき、それが教員採用試験にも有効であったと思います。是非、高めあえる素晴らしい仲間を本研究科で作り、興味があることには全て挑戦をし、未来を切り開いていってください。

日本語教育学プログラム 2019年度修了

奥野 紗衣 さん
国際交流基金バンコク
日本文化センターに2020年8月より
日本語指導助手として勤務
（2021年4月時点）

私は、学部生時代の留学や卒業論文(日本語教材の開発)がきっかけで、日本語教育や日本語をより深く学びたいと思い、言語教育情報研究科に入学しました。私は現在、タイで日本語教師として働いています。日本語教師としても、社会人としてもまだまだ未熟な私ですが、学習者との関わりや、さまざまな業務を通して、少しずつ成長していると感じています。この成長の基盤には、言語教育情報研究科で学んだことが強く影響していると思います。学術的なことも多く学ぶことができる一方で、物事を批判的に捉えたり、多角的な視点から考えたりすることの重要性も学ぶことができました。このような研究科での学びが、現在の仕事にも大変役に立っています。とても有意義な2年間でした。

日本語教育学プログラム 2016年度修了

チン ブンテイ さん
日本語教師
深圳市光明高級中学

卒業後、中国に帰って、オンライン教育に関する仕事をして3年半が経ちました。異なる学習目的を持つ学生たちに日本語を教えることは私にとって勉強でもあり、挑戦でもあります。日本語教師として、まだ未熟者ですが、学生たちと関わりながら一緒に成長できることから、そのやりがいを感じています。言語教育情報研究科で勉強した2年間、日本語教師として不可欠な専門知識を獲得し、また日本語教育実習を通して実践スキルを鍛えました。これからは高校で日本語を教えることになり、研究科で学んだ知識を多様な日本語教育現場で生かしていきたいと思います。

言語情報コミュニケーションコース 2005年度修了

木村 修平 さん
立命館大学生命科学部准教授

私は現在、立命館大学生命科学部などで展開している「プロジェクト発信型英語プログラム」の運営に関わっています。英語とICTを知的生産のインフラと位置づけるこのプログラムでは、言語教育情報研究科で学んだことが十二分に活用できており、同じく研究科を修了した同僚らとともにやり甲斐のある日々を送っています。英語とICTの両方を学べる研究科に進学したからこそ今の私があります。自分次第で多くの刺激とチャンスと人脈を手に入れられる場所ですので、後輩院生にはぜひアクティブかつ貪欲に、研究科のリソースを利用してもらいたいです。

言語情報コミュニケーションコース 2011年度修了

多田 一馬 さん
アマゾンジャパン合同会社

塾講師のアルバイトで英語指導に興味を持ち、深く英語教育や言語学を学びたいと思ったことで大学院進学を考えました。言語教育情報研究科に進学する決め手となったのは、英語教員の専修免許状の取得を目指しながら、言語学を学べるという点です。TESOL資格取得プログラムにも興味があったので、1回生の夏にはオーストラリアのサザンクィーンズランド大学に5週間留学し、英語非母語話者への英語教授法についても学びました。最終的には、自分が本当にしたいことを見つけ、民間企業に就職することにしましたが、大学院で身に付けた「深く考える姿勢」は今でも仕事をする中で活かされています。大学とは違った刺激が大学院にはありますので、前向きに大学院進学を検討していただければと思います。

修士論文タイトル一覧

【英語教育学プログラム】
Foreign Language Enjoyment and Anxiety: A Case Study on an Australian Intensive Program

Inhibitory Control in Language Switch of Chinese-Japanese-English Trilinguals: An fNIRS Study

【日本語教育学プログラム】
主文末にみられるムードの「た」の過去性

韓国人日本語学習者の発音における日本語母語話者と韓国人日本語学習者の違い - 母語話者との接触度合いの影響に焦点を当てて -

千葉県市原市における伝統方言の若年層への継承について

【言語情報コミュニケーションコース】
「目指すは構文」に関する一考察　-日本語における周辺的な構文の構文ネットワーク-

モンゴル語の外来語における音韻構造の探究

進路

教職

【公立学校教諭】
京都府　京都市　亀岡市　大阪府　大阪市　兵庫県　西宮市　愛媛県　岐阜県　福井県　愛知県
神奈川県　東京都　京都教育大学付属桃山中学校　東京大学附属中等教育学校

【私立学校教諭】
立命館大学系列中学・高等学校　同志社大学系列中学・高等学校　西大和学園中学校・高等学校
京都女子高等学校・京都女子中学校　京都光華中学校高等学校

【日本語教師】
京都日本語学校　京都文化日本語学校　ECC国際外語専門学校　メリック外語学院　関西外語専門学校
大阪YWCA　立命館大学　立命館アジア太平洋大学　滋賀大学　九州大学　山東交通学院（中国）
建陽大学（韓国）　タマサート大学（タイ）　青年海外協力隊

企業

三菱自動車　サントリー　ソニー　富士通　富士ソフト　日本電気　NTTドコモ　アクセンチュア　アップルコンピューター・シンガポール法人 日本航空　JTB　プロクター・アンド・ギャンブル・ジャパン　サッポロビール　ヨドバシカメラ　ニチコン　京セラ　日本通運　日本生命　かんぽ生命　ユーシン精機　国立大学法人職員　私立大学職員　国際協力機構（JICA）　国際交流基金

進学

立命館大学文学研究科 立命館大学政策科学研究科　立命館大学先端総合学術研究科　京都大学文学研究科　京都大学人間・環境学研究科　大阪大学言語文化研究科 名古屋大学国際開発研究科　筑波大学人文社会科学研究科　京都外国語大学外国語学研究科　関西大学外国語教育学研究科　関西学院大学言語コミュニケーション文化研究科・文学研究科

資格・免許

教育職員免許状

言語教育情報研究科では、高等学校専修免許状（英語）と中学校専修免許状（英語）の取得が可能です。1種免許状を既に有している場合は、指定された科目のうちから24単位以上単位取得し、修士学位を取得することによって専修免許状を取得できます。

TESOL
TESOL（Teaching English to Speakers of Other Languages）は英語非母語話者への英語教授を表す用語です。本研究科では、海外大学において夏期にプログラムを開講しており、修了者にはCertifcateが授与されます。この資格は日本で英語教員になるために必要ではありませんが、英語教育の専門資格として国際的に評価されるものです。

日本語教員養成課程

言語教育情報研究科では、法務省出入国在留管理庁が定めた「日本語教育機関の告示基準」及び「日本語教育機関の告示基準解釈指針」を満たした日本語教員養成課程を設置しています。日本語教育学プログラム所属院生が所定の要件を充足し研究科を修了した場合、「日本語教員養成課程修了証」を授与します。

究論館

（大学院生用研究施設）

2015年4月に開設された大学院生のための研究施設です。院生が個人で利用できる机（キャレル）や、研究科や専門を超えて、グループでのディスカッション、共同研究、研究成果の発信・共有などができる院生のためのスペースとしてリサーチコモンズを設置しています。

多文化共生をめざした日本語教育プロジェクト

「多文化共生をめざした日本語教育プロジェクト」は、衣笠キャンパス近隣地域の住民や立命館大学の留学生、京都府内の外国にルーツをもつ子どもたちなどを対象に、院生が日本語のサポートをするプロジェクトです。プロジェクトは、基本的に院生によって協働的に運営され、学生募集、担当者や教室スケジュールの決定、対象者のニーズに応じた日本語や児童・生徒の教科などのサポート、多文化交流会等の活動を協働的に行っています。学習者の母語を利用した教え方、コミュニケーション能力を引き出すためのタスクなど、院生同士で工夫し合い、一人一人の学習者に向き合いながらプロジェクトを進めています。また、言語教育情報研究科では、本プロジェクトを多様な面から理論的にも考えていく機会とするため、学習会やシンポジウムを開催しています。

言語脳科学研究

言語教育情報研究科では、2010年度以降研究科プロジェクトとして脳科学による言語処理メカニズム解明研究を、教員と院生が共同研究者となり取り組んでいます。科研費等学内外の研究費を獲得して、人文系研究科としては極めて珍しい大型機器（島津製作所OMM-3000）を所有した特色ある研究を進めています。日本人英語学習対象に英語力向上と脳賦活の変化、英語圏からの帰国生の日本での英語力保持と脳賦活変化、留学生対象の日本語力テストを脳賦活面から検証、メタ認知力に関してバイリンガル児とモノリンガル児の比較、西洋脳と東洋脳比較等の研究を行っています。効果的外国語学習方法に繋がる方策を探るための基礎研究を続けています。

コーパス

コーパスとは、コンピュータで処理できる大量の言語資料を指します。人間であれば100年かかる作業がコンピュータだとほんの数秒でできます。機械がもつこの桁違いの情報処理能力を駆使して、これまでの言語研究では見逃されてきた構文や、語と語の慣習的な結び付きであるコロケーションなどを詳細に記述することが可能になりました。コーパスから適切に情報を抽出するためには言語学的な分析力と機械についてのある程度の知識が不可欠ですが、これらの知識を駆使し、本研究科が保有する高性能のコーパス用サーバーと膨大な量のコーパスを活用することで、英語・日本語の諸特徴を探っていきます。現在はコーパスを処理するための便利なソフトがありますが、可能な限りそれらには依拠せず、処理過程を透明にし、コーパスをブラックボックスにしない方法を考えます。

教員紹介 ※2021年度現在

David Coulson 教授

専門領域 Second Language Vocabulary Acquisition, TESOL, CLIL, SLA

主に英語教育学プログラムを担当

My research activities started with investigations into Task-Based Learning and conversation analysis. Now, I am also interested in issues relating to vocabulary learning and acquisition. Recently, I have conducted research on vocabulary speed and decoding, and repetition in word learning. Additionally, I have been active in publishing research on CLIL and the development of academic writing. These are all active areas, and I would like to supervise research in them.

津熊 良政 教授

専門領域 言語間における対照音声学的研究

主に英語教育学プログラムを担当

わたしは、主にリズム・アクセント・イントネーションなど言語間における韻律的特徴の対照音声学的研究を課題として、日本語、英語、中国語等の韻律研究を続けています。実験音声学的手法を用い、スピーチデータの音響分析を通じて、諸言語の様々な音声特徴と音韻ルールを客観的に解明し、その結果を外国語教育、とりわけ英語や日本語音声教育に生かしていきたいと考えています。

有田 節子 教授

専門領域 言語学、日本語学、日本語文法研究の日本語教育への応用

主に日本語教育学プログラムを担当

現代日本語の文法と意味についての言語学的研究を日本語教育に活かすことを目指しています。日本語のみならず、さまざまな言語の文法現象の分析に適用可能な枠組みで研究を進めることにより、さまざまな母語を持つ学習者に対する日本語教育に貢献したいと思っています。特に、日本語非母語話者の日本語教育者、日本語研究者にとって本当に必要な知識・技能とは何かについて常に考えながら研究・教育に取り組んでいます。

大野 裕 教授

専門領域 日本語教育学、言語学

主に日本語教育学プログラムを担当

日本語教育の分野では、教材開発を中心的な課題にしています。1990年代に作った「げんき」に代わる斬新な教科書を作りたいと考えています。言語学の中では特に命題態度などの現象の形式意味論的な分析を進めています。また、青空文庫のような電子テキスト・アーカイブ構築に必要なテキスト処理を3つ目の研究テーマとしています。

清水 裕子 教授

専門領域 英語教育学、言語テスト、ESP:English for Specific Purposes

主に英語教育学プログラムを担当

言語教育における測定と評価に関連する領域を研究対象としています。最近の英語教育における産出能力テストの導入の動きは、様々な波及効果を与えていくと予想でき、教室環境での言語テストとカリキュラムの親和性の経年分析を通して、テストが備えるべき要素のひとつである妥当性について研究を進めています。もうひとつの領域として、ESP(English for Specific Purposedの観点からのカリキュラム設計や教材開発にも興味をもっております。

湯川 笑子 教授

専門領域 中学校高等学校の英語教育、小学校英語教育、バイリンガル教育、英語教師教育

主に英語教育学プログラムを担当

日本の学校教育における英語教育、特に小学校英語教育および、その成果を生かす中学校英語教育の有り方、および教師教育について研究しています。バイリンガル教育の観点から、大学における英語開講の科目の運営方法、母語である日本語をどのように使用すると効果的かなどについて実践をしながら研究を進めています。

大島 弥生 教授

専門領域 日本語教育学、談話分析

主に日本語教育学プログラムを担当

留学生に対する日本語教育、特にアカデミック・ライティングについての教育・研究を行っています。留学生が産出する文章の特徴を探る中で、読んだものや聞いたものなどの外からの情報をどう自己の文章に取り込み、情報への解釈や評価を表していくかに興味を持っています。留学生が目標とする学術論文ジャンルについても、その言語的特徴を探り、教材開発につなげたいと思っています。同時に、文章を書くプロセスでの内省や意見交換においてどのような情報のやりとりが起こっているのか、何を学んでいるのか、という点も研究テーマとしています。

北出 慶子 教授

専門領域 日本語教育学、言語文化教育学、談話分析、教師研修

主に日本語教育学プログラムを担当

多文化共生社会における言語能力やそれを伸ばす教師に求められる能力について研究しています。また、そのような能力を分析するための研究手法や育成するためのカリキュラム開発に取り組んでいます。具体的には、①言語学習者や教師のライフストーリー分析、②多言語文化背景を持つ話者間の会話を対象とした分析、③共修（受講生の多様な文化背景を活かした学び）カリキュラムの開発、などです。

田浦 秀幸 教授

専門領域 英語教育学、第2言語習得論、(神経)心理言語学、言語習得・保持・喪失

主に英語教育学プログラムを担当

大きく分けて2分野の研究を進めています。第1のテーマは(神経)心理言語学分野に関するもので、バイリンガルの第2言語獲得・保持・喪失を言語面・脳科学面両面から扱っています。第2の研究テーマは、効果的な英語教育についての研究です。理論研究と現場実践を車の両輪と考え、どちらにも偏らずそれぞれお互いに還元できる研究を心がけています。

佐々木 冠 教授

専門領域 言語学、日本語方言文法記述

主に言語情報コミュニケーションコースを担当

日本語の方言の文法記述が主な専門です。類型論や理論言語学の知見を活かして方言の形態音韻論、格、文法関係、態について分析しています。様々な言語の分析を参考に方言の文法を分析するだけでなく、方言の分析から理論的な貢献をすることも心がけています。言語接触による言語変化など社会言語学的なテーマにも関心があります。東日本の方言を中心に研究してきました。西日本の方言への理解を深めたいと思う今日この頃です。

遠山 千佳 教授

専門領域 日本語教育学、第二言語習得

主に日本語教育学プログラムを担当

文法と談話のかかわりに関心をもち、文脈や状況から分析する機能主義的アプローチで研究を進めています。たとえば、日本語の係助詞「は」による談話のトピック管理について、母語による違いやその要因などを探っています。また、ある構文（分裂文や引用文など）がどのような文脈を誘発するかにも興味を持っています。そしてこれらの研究結果から談話教育に提言ができればと思っています。

平田 裕 教授

専門領域 日本語教育学、日本語の歴史言語学、言語変化とバリエーション

主に日本語教育学プログラムを担当

大きく分けて2つの分野の研究をしています。第1は、教室での日本語教授法、教材、テスト、自習の位置づけや内容などについて、より普遍的で一貫したアプローチによって向上させていく方法を研究しています。第2は、競合する語形／表現から生まれる使い分けや取捨選択、様々な言語／方言で見られる共通の現象、似ているけれども少し違う現象などを検証し、どのように言語を捉えるべきかを研究しています。

滝沢 直宏 教授

専門領域 英語学、コーパス利用の方法論研究

主に言語情報コミュニケーションコースを担当

これまでの英語学研究で周辺的あるいは例外的とされ、不十分にあるいは全く研究されていなかった構文的現象を発掘し、その詳細な記述と理論的意味合いを考察しています。また、語句の慣習的結合関係であるコロケーションの記述的研究も行っています。最近は特にly副詞の振る舞いに関心をもっています。両者の研究に深く関わるコーパス利用についても、その方法論自体を研究対象にしています。

野澤 和典 教授

専門領域 応用言語学、テクノロジー利用の言語学習、異文化コミュニケーション

主に言語情報コミュニケーションコースを担当

大きく3つの分野で研究をしています。第一は応用言語学、教育工学、情報科学等に基づくTELL (Technology Enhanced Language Learning)に関する研究で、e-Learning/m-Learningを扱っています。例えば、マルチメデイア教材開発やiPad活用の効果的な言語学習等の研究をしています。第二は、国際共同プロジェクトを含めた非言語コミュニケーションに関わる異文化理解研究を心がけています。第三は、大学英語教育に関する研究で効果的な教授法や評価方法等を探っています。

※2022年度以降はゼミ担当なし